設計主旨説明

双葉町立双葉遊学舎建設工事

丘に集う　共に学ぶ

多様な領域が作る学びの森



アーキシップ・鈴木弘人設計業務共同企業体

事業概要・計画のテーマ



丘に集う　共に学ぶ

多様な領域が作る学びの森

学校づくりを軸に、町の未来をつくる復興計画

双葉町が全町避難から15年を経て再生する新教育施設「双葉遊学舎」は、単なる公立学校ではなく、これからの双葉町の教育と文化の中心となる市民施設です。異なる世代や背景を持つ人々が共に過ごし、新たな可能性を生み出す学びの場を目指します。

0–15歳
認定こども園と
義務教育学校が一体

0–100歳
地域住民も日常的に
集い、学び、混じり合う

15年
全町避難を経て
町に戻る学び舎

建築概要

敷地面積	建築面積	延床面積	構造・規模
50,017.17㎡	9,765.58㎡	9,396.75㎡	S造 地上2階

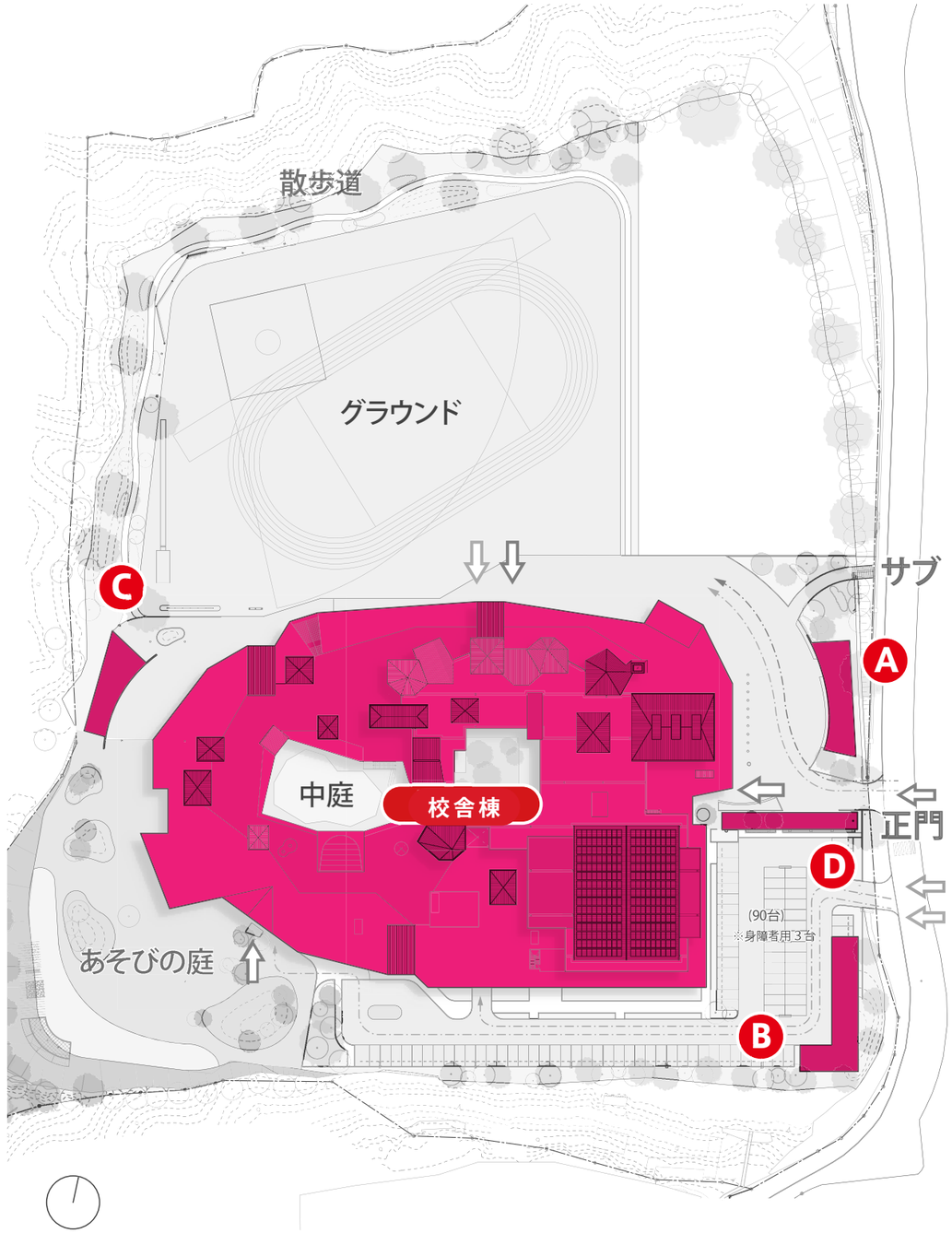
計画場所	福島県双葉郡双葉町大字新山字東舘1番、大字長塚深谷184番2
用途地域	第一種中高層住居専用地域（防火地域 指定なし）
建蔽率	19.52%　（許容 60.00%）
容積率	18.05%　（許容 200.00%）
建築基準法上の用途	義務教育学校・幼保連携型認定こども園
消防法上の用途	(16)項イ　複合用途防火対象物
構造・階数	鉄骨造　地上2階（地下なし）
高さ	最高高さ 12.85m ／ 最高軒高 12.45m

建物別用途・延床面積

校舎棟

付帯施設A〜D 計 664.93㎡

校舎棟	義務教育学校、認定こども園	8,731.82 ㎡
A 付帯	防災備蓄倉庫、トイレ	194.49 ㎡
B 付帯	電気室、発電機室、受水槽、消火ポンプ室	228.00 ㎡
C 付帯	倉庫、トイレ	114.44 ㎡
D 付帯	駐輪場	128.00 ㎡
	合計（延床面積）	**9,396.75 ㎡**
	法定延床面積	**9,027.88 ㎡**



敷地環境

高低差のある高台

双葉中学校跡地の高台。北は約20m、南は約15mの高低差があり、校地の周囲は緑豊かな法面となっている。

北東側の盛土は軟弱地盤

造成前後の写真から切土・盛土の範囲が読み取れる。北東側の盛土は地盤が悪く、震災時にも被害があった。

進入は東側の正門のみ

町道前田・長塚線沿いの正門が唯一の入口。南西側の一部は校地より高く、影を落とす。



撮影ポイント

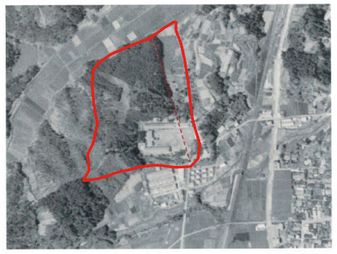


写真1　双葉中学校グラウンド造成前



写真2　造成後の切土・盛土範囲











まちづくり計画と敷地の関係

敷地は復興まちづくり計画の「新市街地ゾーン」の中心にあり、沿岸部へ続く東西の復興シンボル軸、浜通りを南北に貫く国道6号との回遊性を生み出せる位置にある。敷地内に留まらず町全体を学びのフィールドと捉え、まちづくりと一体となった学校づくりを目指す。

配置計画

建物は南側の安定地盤に
安定した支持地盤となる敷地南側に建物全体を配置する。

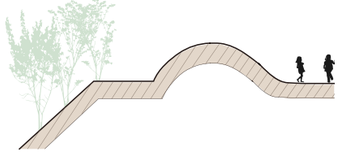
利用者ごとの出入口と見守り
利用者ごとに出入口を分け、近くの管理諸室から職員が見守る。
東側の法面にサブアプローチを1か所設ける。

歩車分離の徹底
既存の車出入口を生かし、駐車場（90台）・サービス・こども園送迎の動線を歩行者と分ける。

将来は街に開くまちひろばへ
グラウンド東側は今回整地のみ。将来は住民が自由に使えるまちひろばとし、屋外も含め街に開く。

あそびの庭から続く散歩道
まちひろばとあそびの庭を緑豊かな散歩道でつなぎ、途中にパーゴラの日除けスペースを設ける。

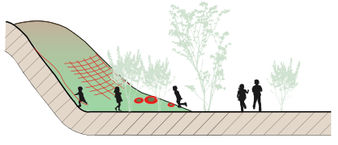
転落防止マウンド



北西側の敷地境界付近は急斜面となっているため、マウンドを設けて、安全を確保する。

好奇心と探究心を育む「あそびの庭」
こども園と1〜4年生の教室に面する南西のエリア。あえて土のままとし、子どもたち自らが手を加えていく。

斜面地を生かした遊具



南西面の傾斜地形を生かしたアスレチック性のある遊具を作ります。

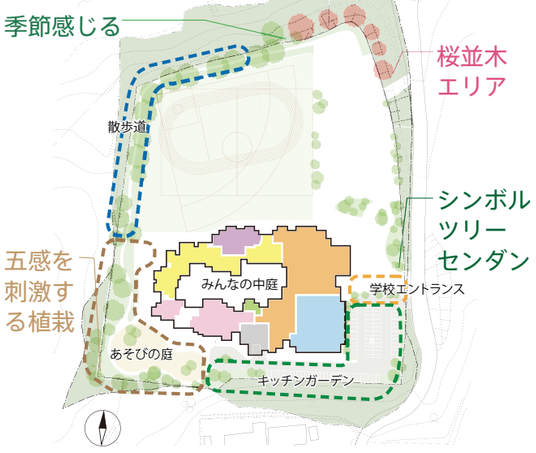




凡例

- 舗装ブロック（プロムナード）
- 土舗装
- 天然芝
- 混合土
- 利用者
- 利用者出入口
- 教職員
- 教職員出入口
- 児童（小中）
- 児童・生徒出入口
- 保護者送迎
- 保護者送迎出入口
- サービス
- サービス出入口
- 緊急車両
- 緊急車両出入口

敷地の特性を生かした植栽計画
季節を感じる落葉樹や、学びの一環となるキッチンガーデンなど、場所に合った樹木を選ぶ。北東側は既存の桜並木を生かす。





1

みんなの中庭を中心に、多世代が混じり合う学びの環

ひとつながりに回遊する領域

みんなの中庭を囲んで、地域共創エリア・アリーナ・義務教育学校・こども園の各領域が連続し、ぐるりと回遊できる構成とする。

内と外が混じり合うコーナー

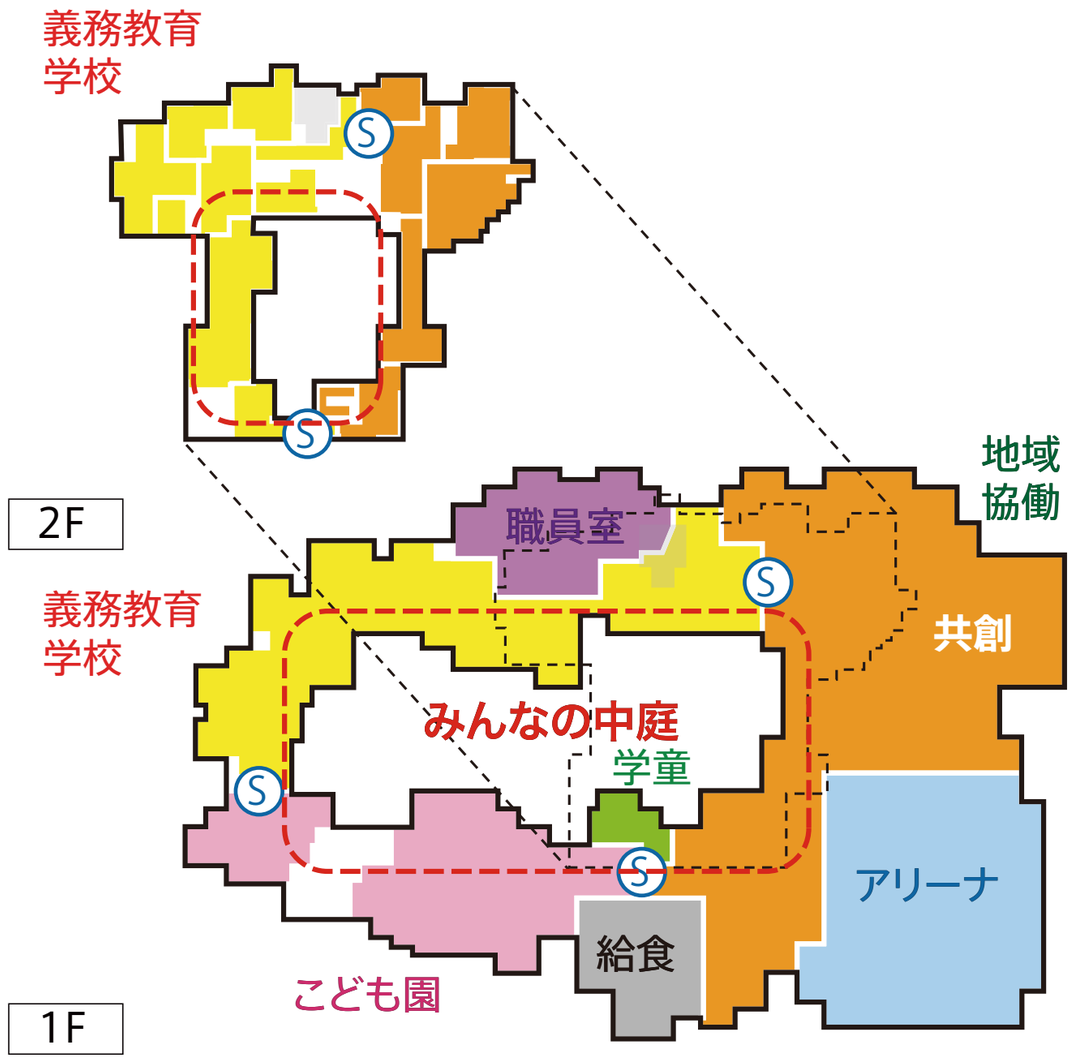
大きなサークル状の空間の外周側と中庭側の両面に、内外が混じり合う多様なコーナーを設ける。

住民と子どもが日常的に交わる

学習教室・特別教室の一部を地域共創エリアに置き、住民と子どもたちが自然に混ざり合う、この学校らしい場所をつくる。

凡例

- 地域共創エリア
- 教職員
- アリーナ
- 義務教育学校
- 放課後児童クラブ
- 回遊ループ
- 認定こども園
- 給食
- Ⓢ セキュリティライン



繋がるゾーニング（1F・2F）

2

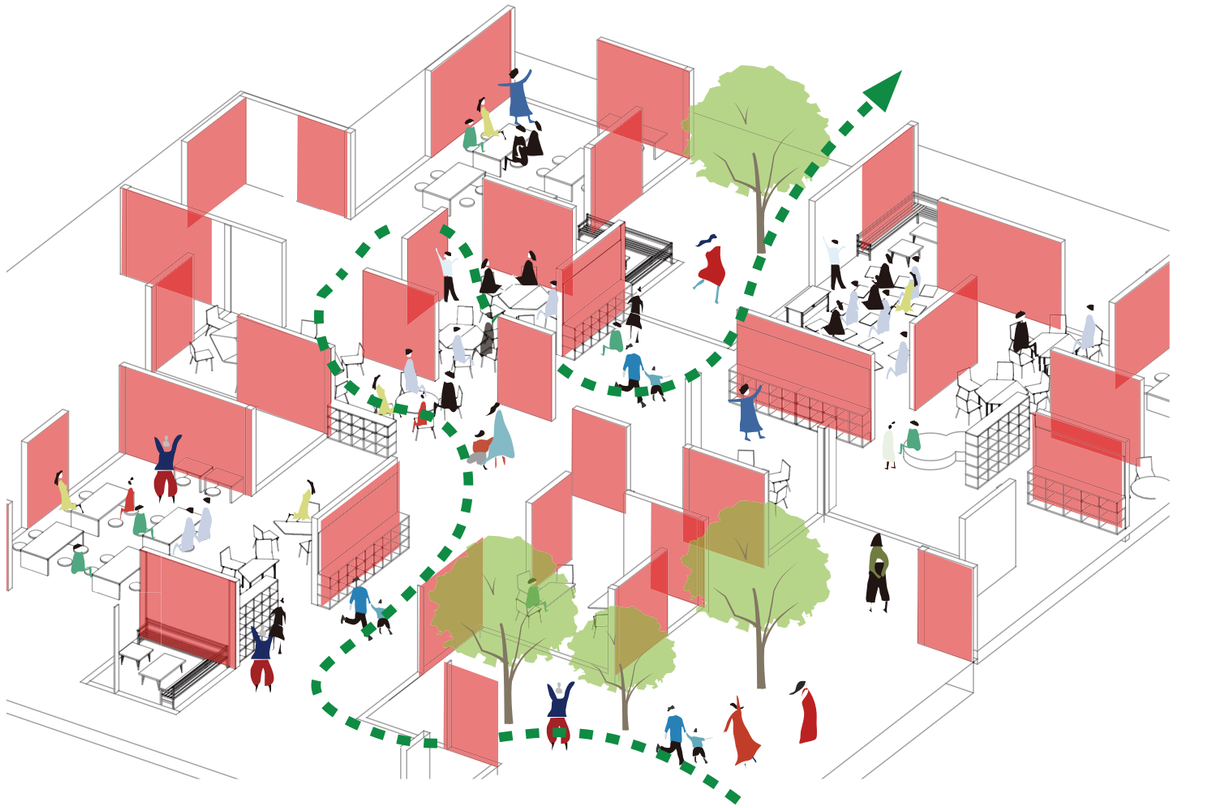
子どもたちが自ら学びをデザインできる、緩やかに繋がる学習環境

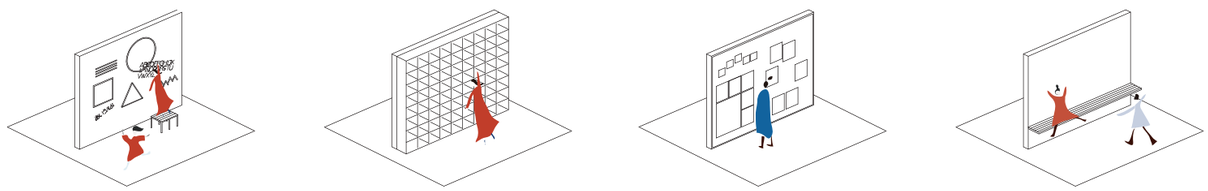
部屋ではなく「領域」

風車型にずらして配置した壁柱と、その間に入る可動間仕切りや家具を組み合わせ、独立した部屋ではなく緩やかにつながる領域として構成する。

壁そのものが学びの道具

壁や間仕切りにホワイトボード・収納・掲示・ベンチの機能を持たせ、従来の教室型にとらわれない学びの場を子どもたち自身がカスタマイズできる。

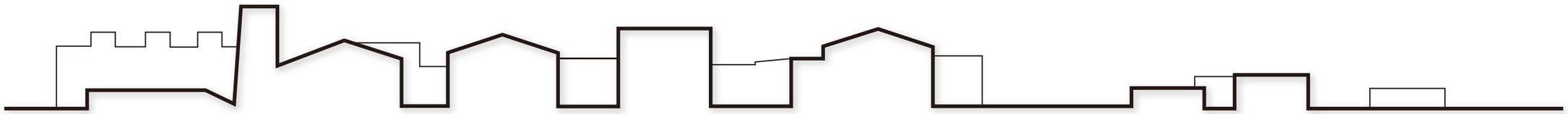




多様な壁柱イメージ

3

双葉町の新しいシンボルとなる、集落のようなシルエット



外観イメージ ― 集落のようなシルエット

家型が並ぶ集落の風景

2階の教科教室群は、みどりの中庭を囲むように一つひとつ形の異なる家型を並べ、集落のような風景をつくる。

共用空間で教室同士が繋がる

中庭やスタディラウンジなどの共用空間を介して教室同士が繋がり、多様な活動を生み出す。

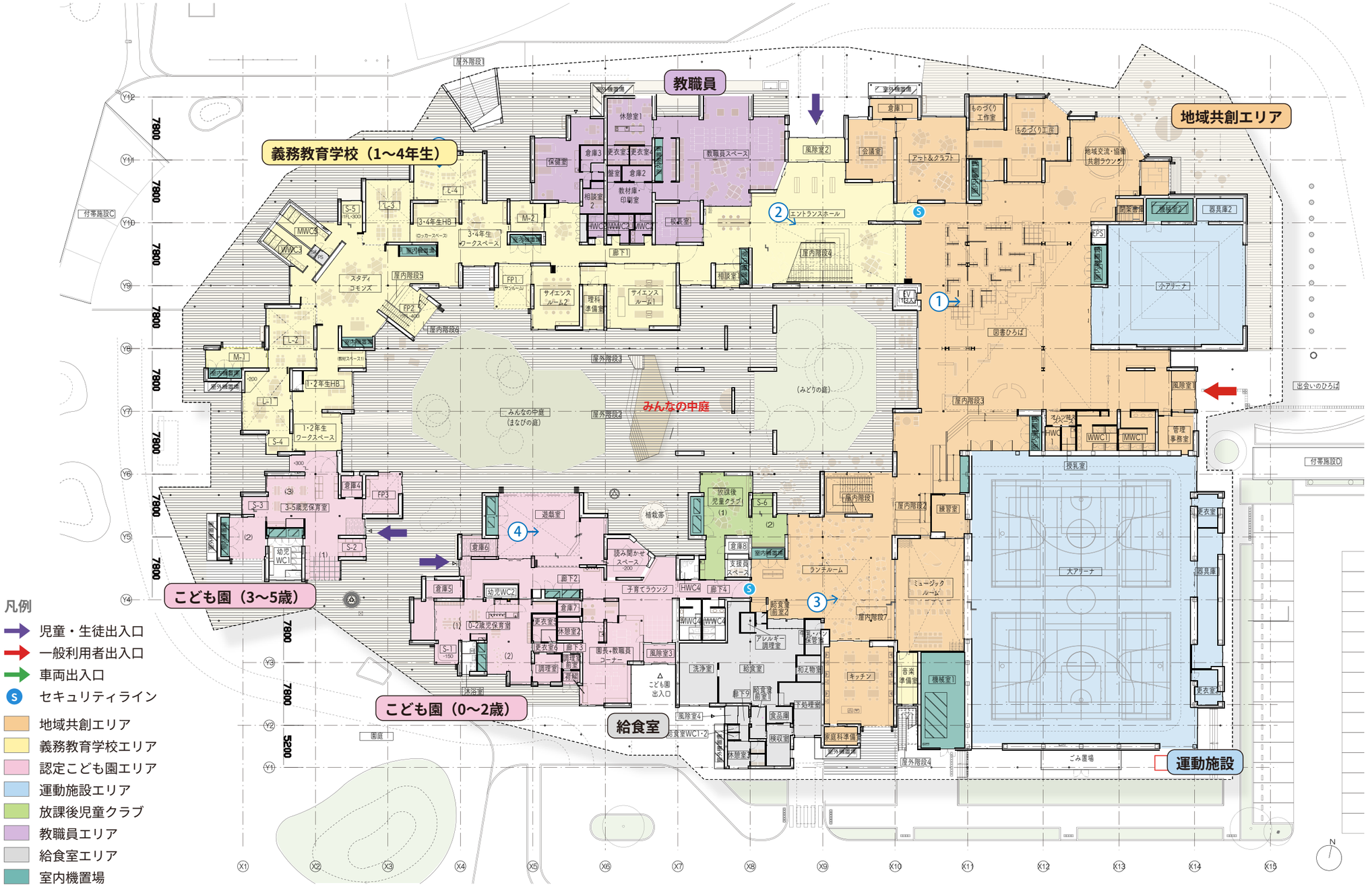
丘の上の町のシンボル

双葉町の街並みを望む丘の上に立つ遊学舎が、新しい町のシンボルとなることを目指す。

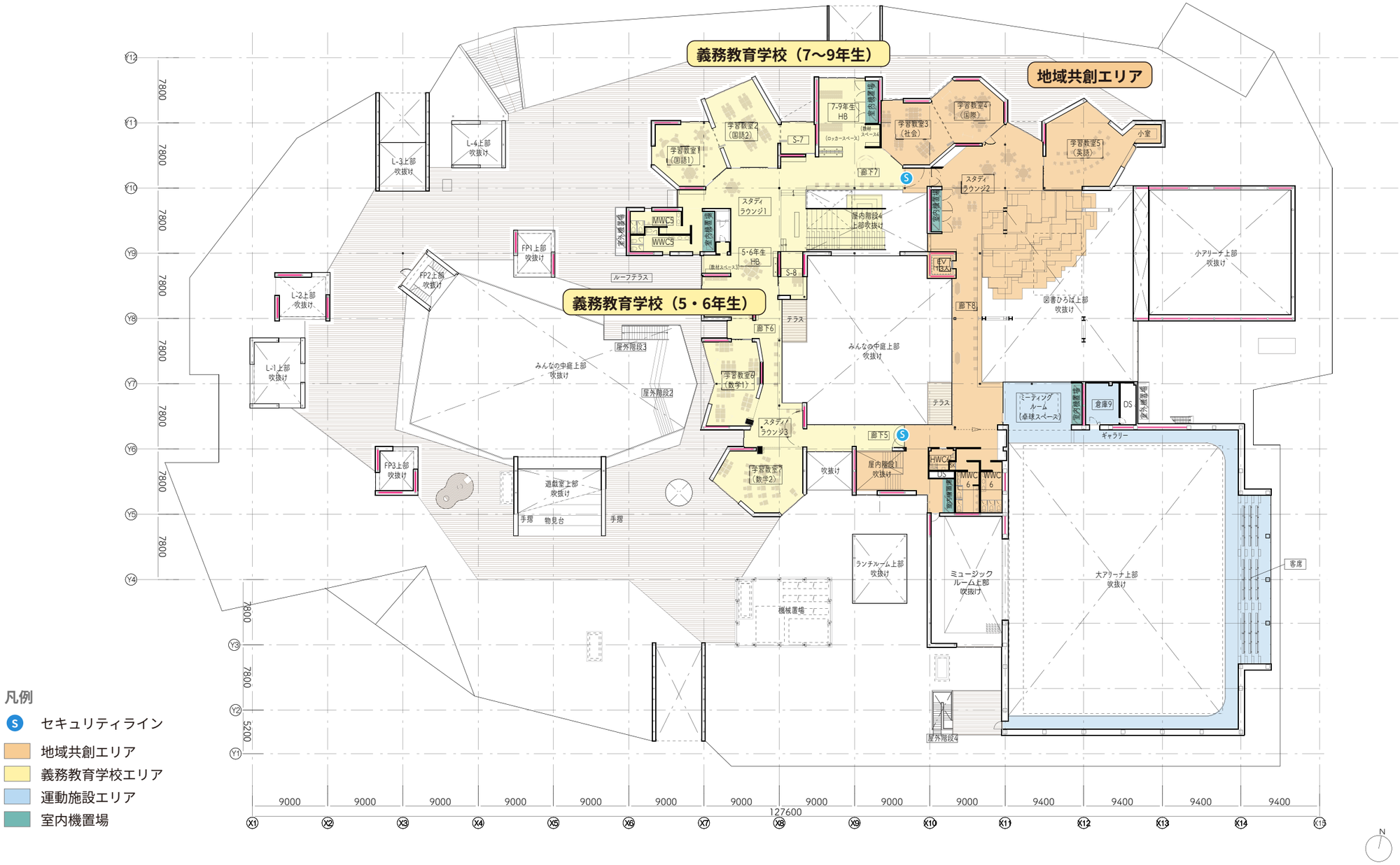


北東側の俯瞰イメージ

1階平面図


教職員
義務教育学校（1〜4年生）
地域共創エリア
こども園（3〜5歳）
こども園（0〜2歳）
給食室
運動施設
みんなの中庭
エントランスホール
休憩室1
保健室
倉庫3
更衣室
更衣室
倉庫2
教職員スペース
相談室2
教材庫・印刷室
校長室
風除室2
会議室
アート&クラフト
ものづくり工作室
ものづくり工房
地域交流・協働共創ラウンジ
閲覧書庫
通級室2
器具庫2
小アリーナ
図書ひろば
出会いのひろば
風除室1
管理事務室
授乳室
スタディコモンズ
3・4年生HB
3・4年生ワークスペース
1・2年生HB
1・2年生ワークスペース
3-5歳児保育室
0-2歳児保育室
遊戯室
放課後児童クラブ
支援員スペース
ランチルーム
子育てラウンジ
園長・教職員コーナー
こども園出入口
ミュージックルーム
大アリーナ
練習室
器具庫
キッチン
給食室
洗浄室
和ミ物室
食品庫
検収室
下処理室
機械室1
音楽準備室
ごみ置場
サイエンスルーム1
サイエンスルーム2
理科準備室
相談室
園庭
屋外階段1
屋外階段2
屋外階段3
屋外階段4
屋内階段1
屋内階段2
屋内階段3
屋内階段4
屋内階段7
付帯施設C
付帯施設D
凡例
児童・生徒出入口
一般利用者出入口
車両出入口
セキュリティライン
地域共創エリア
義務教育学校エリア
認定こども園エリア
運動施設エリア
放課後児童クラブ
教職員エリア
給食室エリア
室内機置場
内観イメージ（p.010）の視点

2階平面図



凡例

- セキュリティライン
- 地域共創エリア
- 義務教育学校エリア
- 運動施設エリア
- 室内機置場

中庭計画

多様な人々と活動が混じり合う、みんなの中庭

異年齢の子どもたちや多世代の人々の活動が混じり合う、この計画を象徴する交流の中心。性格の異なる2つの庭で構成する。

みどりの庭　静

学校地域共創エリア側。図書ひろばやランチルームと連続する、緑あふれる落ち着いた憩いの場。

まなびの庭　動

義務教育学校・こども園側。深い庭で屋内・屋外・半屋外を使い分け、遊戯室やFPが囲んで活動が垣間見える。



FP(フレキシブルポケット)



片づけなくてもよい継続した創作が続けられる多目的スペース

デッキ



ぽかぽかした暖かい天気の日には、デッキでの学びが自由に繰り広げられる

まなびの庭と園庭を繋ぐ遊具ひろば



異年齢の子どもたちの活動が立体的に混じり合う、園庭に繋がる広々とした半屋外の遊具ひろば

半屋外の遊び場



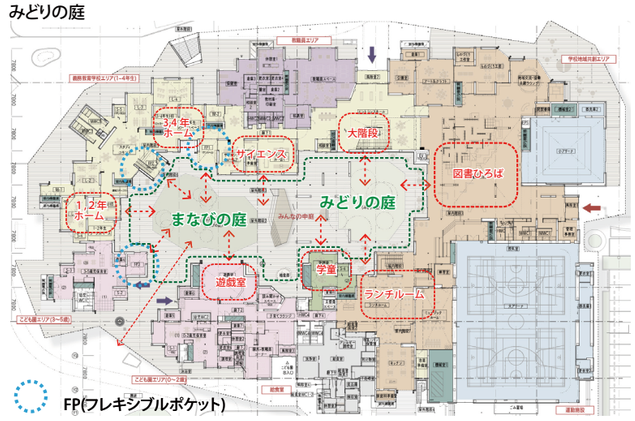
天気に左右されず、子どもたちが自由に集い、遊び、学べる半屋外の空間



まなびの庭



みどりの庭



静と動、2つの庭から居場所を選べる

各エリアは適度な距離を保ちながら、中庭を介して互いの活動を垣間見られる。静かなみどりの庭と、にぎやかなまなびの庭があることで、一人ひとりが好きな環境を自由に選べる。

断面計画・環境対策

省エネルギーと快適な生活環境を両立する、次世代型エコスクール

快適な居住環境
子ども・教職員・地域住民など、多様な人が快適に過ごせる室内環境を確保する。

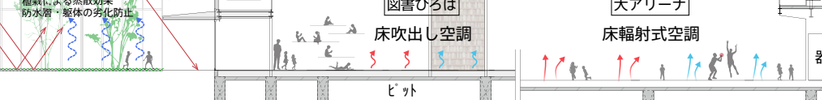
高効率システムの最適な組合せ
一次エネルギー消費量を削減する高効率設備と、地域・建物の特性を生かした仕組みを組み合わせる。

建物そのものが環境学習の教材
設備を見せる・肌で感じる・計測データを授業で使うなど、教育面でも環境配慮に貢献する。

ZEB Ready 達成

BEI（再エネなし）
0.43

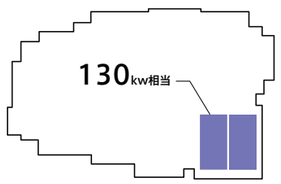
BEI（再エネあり）
0.32



※実施設計完了時（2026.09.28 BELS交付）

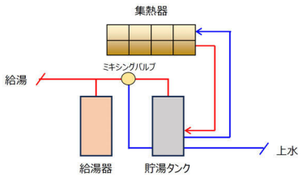
太陽光発電



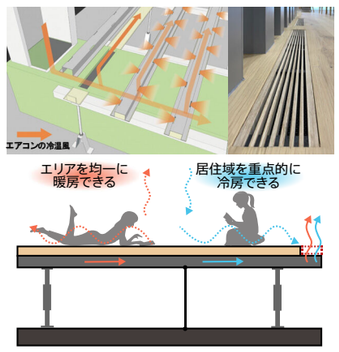


太陽熱利用





床吹出ー床輻射式空調





防災計画

災害時に地域を守る、避難所としての役割

500人
避難者を収容

3日間
生活環境を確保

300食
炊き出し調理

電源　太陽光発電＋蓄電池と非常用発電機を備え、大・小アリーナなど共創エリアの避難場所に空調・換気・照明・コンセントを供給する。

水　飲料水は災害備蓄品、生活用水は地下ピット（雑用水槽）で賄う。受水槽の非常時用蛇口で貯留水も使える。

屋外　炊き出しスペースとマンホールトイレを、避難・災害対応車両の支障にならない位置に計画する。



凡例

屋内避難場所	給電・給水
通路：照明、コンセントのみ使用可能（換気は自然換気）	備蓄
事務・管理・調理	トイレ

■災害対応エリアー覧表

No.	室名	面積（㎡）	人数（人）	対応設備			
				空調	換気	照明	ｺﾝｾﾝﾄ
①	大アリーナ	1040	310	○	○	○	○
②	小アリーナ	300	90	○	○	○	○
③	地域交流・協働・共創ﾗｳﾝｼﾞ	170	30	○	○	○	○
④	アート＆クラフト	120	20	○	○	○	○
⑤	ミュージックルーム	120	30	○	○	○	○
⑥	放課後児童クラブ	70	20	○	○	○	○
	図書ひろば、ものづくり工房 ランチルーム	–	–			○	○
(1)	管理事務室	30	職員　2	○	○	○	○
(2)	会議室	45	職員　14	○	○	○	○
(3)	給食調理室	–	–				
(4)	教職員スペース	180	–		○	○	○
(5)	園長＋教職員コーナー	75	–		○	○	○

合計人数	職員 16 人 一般 500 人